

2014年10月20日

日本銀行大阪支店

近畿地域金融経済概況

【全体感】

近畿地域の景気は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動がみられているが、基調としては緩やかに回復している。

すなわち、設備投資、公共投資は増加しているほか、輸出も緩やかに増加している。個人消費は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響も徐々に和らぎつつあり、雇用・所得環境などが改善するもとで、基調としては堅調に推移しているとみられる。住宅投資は、弱めの動きとなっている。こうしたもとで、生産は、駆け込み需要の反動や天候要因などから一部に弱めの動きがみられるものの、高めの水準を維持しており、基調としては堅調に推移している。この間、在庫は高めの水準となっている。雇用・所得環境は、賃金の増加等から雇用者所得も改善している。こうした中、企業の業況感は、消費税率引き上げの影響や天候要因などから改善に一服感がみられるが、総じて良好な水準を維持している。

先行きについては、海外経済、為替相場や金融市場、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などに注視が必要である。

【各 論】

1. 需要項目別動向

公共投資は、増加している。

輸出は、電気機器を中心に緩やかに増加している。

設備投資は、増加している。

個人消費は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響も徐々に和らぎつつあり、雇用・所得環境などが改善するもとで、基調としては堅調に推移しているとみられる。

8月の百貨店販売額は、前年を上回るなど堅調に推移している。8月のスーパー販売額は、飲食料品を中心に前年を上回っている。8月の家電販売額、乗用車販売は、駆け込み需要の反動や天候要因などから前年を下回っている。この間、8月の外食売上高は、堅調に推移している。7月の旅行取扱額は、国内外ともに前年を上回っている。

住宅投資は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動が引き続きみられている中で、弱めの動きとなっている。

2. 生産

生産（鉱工業生産）は、駆け込み需要の反動や天候要因などから一部に弱めの動きがみられるものの、高めの水準を維持しており、基調としては堅調に推移している。この間、在庫は高めの水準となっている。

生産を業種別にみると、電子部品・デバイスはスマートフォン新製品向けの生産から増加している。一方、白物家電などの電気機械や輸送機械では駆け込み需要の反動から減少している。この間、鉄鋼や化学は横ばい圏内となっている。

3. 雇用・所得動向

雇用情勢をみると、労働需給は改善の動きが強まっている。こうしたもとで、賃金も前年を上回るなど、雇用者所得は改善している。

4. 物価

消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、消費税率引き上げの影響から、高めの伸び率となっているが、消費税率引き上げの影響を除くと、1%前後で推移しているとみられる。

5. 企業倒産

企業倒産は、総じて落ち着いた動きとなっている。

6. 金融情勢

預金残高は、緩やかに増加している。

貸出残高は、住宅ローンの増加や一部先の大口貸出の実行などを背景に前年を上回っている。

預金金利は、低水準横ばい圏内で推移している。

貸出金利は、小幅ながら低下している。

以 上